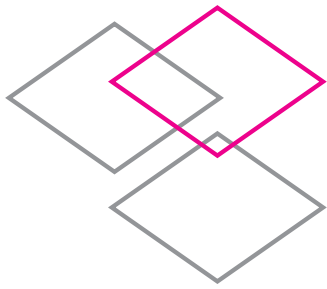


ISSN 0388-5569



LIBRARY NEWS

山口大学附属図書館報

Yamaguchi University
Library Bulletin

2003. April

Vol.24
No.1

これからの図書館のあり方 1	目次	本学関係教官著作物 9
残す意志・伝える心 4		トピックス 10
小特集 / Q & A 図書館利用の基礎知識 6		会議 12

これからの図書館のあり方

医学部分館長 芳原 達也

私達は、昔から図書館を利用する人については、本が好きで、勉強の好きな人というイメージを持っています。実際、今までの図書館の役割は、本とか雑誌をたくさん収集することにより、それを専門的に分類し、利用者に提供するのが主なことでした。この概念は、今も、ありますし、このような役割も、現在の図書館の大きな仕事の一つです。

しかし、時代が変わって、現代は、パソコンやインターネットを使った情報化の時代です。このような時代には、図書館そのものの役割や、概念も変わってきています。

多くの情報が瞬時に収集できる現代では、どの情報が要って、どの情報が要らないか区別することも大切な仕事の一つです。

ある人にとっては、要らない情報が、別の人にとっては、重要な情報であることが応々にしてあります。

このような時、私達は、自分の要る情報を要る量だけ提供してくれたらなあと思います。

しかし、現実には、そうはいきません。インターネットでも雑多な情報が多く、そのほとんどは、不要なものです。これを図書館にあてはめてみますと、個人で要る情報は、ごくわずかで、そのほとんどの情報は、要らないのにストックしておかなければならないと、考えられます。実際、私達が図書館を利用する場合、少しの情報を得るために、多くの時間をかけることが応々にあります。

このような時、少しの時間で、少しの情報が得



られたらなあと思います。

次に、図書館を利用する時、私達が主に使用するのは、雑誌や単行本を読む時です。書店へ行って購入すればよいのですが、経済的に負担がなく、借りるだけで、代金はいらぬのが魅力です。この様な利用は、一般に、市や県の図書館を利用いたします。

また、1冊の本で多くの読者を楽しませてくれるものですから、環境的にも、やさしい気がいたします。

この様にみえますと、図書館の役割や概念が大きく変わりつつあるのが現状です。

これからの図書館のあり方を考えてみますと、まず第一に、いかに図書館をユーザーの人に使用してもらうかが最も大きく、かつ基本的な問題です。このためには、一般の人が、図書館になにを望んでいるか知ることから始めなくてはなりません。

これと同時に、図書館の付加価値を高めることが必要になってきます。

現代社会では、私達は、知識を得るのに、テレビ・インターネット・書物・雑誌・新聞・ビデオ・電話等々、多くの手段を持っています。これらの中から、主に、どの手段から情報や知識を得ているか分析してみますと、年齢により、大きく異なってくるのが解かります。

30才以下の年齢の男女は、主に、雑誌・インターネット・携帯電話・TV等が主流になります。

また、70才以上の高齢の方は、TVと新聞が主流で、30才～70才の中高年は、書物・雑誌・新聞・TV・インターネット・携帯電話等々、多くのメディアを一番利用している年代です。この様に区分すると、図書館では、どの年齢にターゲットを絞って利用してもらうかを考える必要があります。

市とか県の図書館は市民や県民が利用者として主に利用するし、さらに、年齢層も、暇のある定年退職後の高齢者の方とか、子育ての終わ

った中高年の婦人が主となります。これらのユーザーの利用を満すには、古典的な雑誌・単行本・趣味の本や雑誌を整備することがまず必要になります。これに加えるに、パソコンやインターネットを解りやすく解説できるコーナーをもうけることが必要となります。

次に大学の図書館の役割を考えてみますと、インターネットや携帯電話・TV等々で、自由に情報を得ることのできる20才代前後の学生と、20才から60才までの教官が利用者としています。

上記の2群のニーズに答えるのが大学の図書館であると考えられます。

まず、学生のニーズとしては、勉強する場と教科書や専門書を数多くまた何冊かを同時に備える必要がありますし、学生が勉強したい時、いつでも入れる環境を作ることが必要です。

コンビニやスーパーマーケットも24時間開いている状況の中で、時間的感覚がなくなっているのが現状です。こういう時代には、上記の対応をすることが必要となってまいります。

さらに、多くの学生が図書館で勉強したいような環境作りが必要で、空調設備を整えたり、学生同士が討論や会話を自由に行える防音装置のついた部屋の教室を用意することも必要です。

さらに、自己学習を支援するための施設として、個室や、ある程度お菓子や飲料水を飲みながら自己学習できるスペースも必要になります。

これらの事は、既に図書館としての古典的機能を逸脱しているかもしれませんが、これからの学生が利用しやすくする為には、この様な工夫も必要ですし、バックグラウンドミュージックや壁の色の工夫も必要になります。

さらに、現代の学生は、バーチャルな読み物を好むので、マンガ等の単行本をそなえるのも一つの手段かと思われます。

要は、学生が気軽に来て、楽しい気持ちで、より頻繁に利用できるシステムに変えていく必要があります。



図書館とは、こうあるべきという固定概念をすて、それぞれの時代の学生が、最もよく利用出来る場所と、そこを通じて、情報や知識を獲得出来る場に柔軟に変化していくことが図書館の体質には必要かと思われます。

次に教官や大学院生、研究者の図書館に対する第1の要求は、多くの雑誌や報告書を図書館まで行かずに研究室のパソコンで、インターネットを使って検索したり、論文を読んだりすることができるシステムです。

これに対しては、できるだけ多くの電子ジャーナルを備える必要がありますし、また、専門領域が先鋭化されるため、異なる領域をカバーできる広範囲なものも必要になります。

現在、各地の大学図書館では、これにそなえて努力しているのが現状です。

次に必要なのが、雑誌・ポスター等々の出版物に対するレイアウトや校正ができるシステムを開発したり、指導したりすることが望まれます。一般に、上記の事柄は、前例に準じることが多く、新しい規格の導入はなかなか素人ではできません。

こういう仕事は、専門的経験が必要としますので、中々、研究者には欠けているのが現状です。

また、日本の他の大学や、欧米の大学とのテレビ会議や討論会さらにシンポジウムの開催など、メディアを使うことによる情報の交換が望まれます。

このことにより、今までは、出席しなければ得られなかった貴重な情報が学内の図書館に行けば、得られるシステムの開発、さらに、こちらの研究成果を他の大学や欧米の大学に伝達するシステム等々、数多くの事柄が要望としてあがってきます。

この様に考えてまいりますと、現在の先端メディアや高度情報技能を使用することにより、今まで考えられなかった時間と距離の短縮ならびに、生活の豊かさを楽しむことができます。

この中において、図書館の位置づけは、今後、益々、重要性を増すとともに、時代のニーズに対応した柔軟性を持つことが必要となります。

これは、今までの図書館の概念にとらわれない発想や考え方が必要となります。

社会のニーズに対応した適応を示すことにより、より社会に役立つ形に変換することこそ、これからの図書館に求められる最も大きな課題と考えられます。

(ほおばら たつや)



試験期の閲覧室風景(本館)



国家試験追い込み(医学部分館)

残す意志・伝える心

人文学部講師 尾崎千佳

一月も末のある日、附属図書館本館にて、突然、本誌への寄稿を依頼された。指導学生とともに、平生、図書館の恩恵に浴している身であり、且つ、図書と図書館をめぐるあれこれについて思うところもあり、お引き受けすることにした。私は運営委員の任にはないし、そもそも、本学人文学部に赴任してようよう二年が経とうかという新参者である。そのような私が、きわめて個人的な体験からこの稿を書き始めることを、まずは許されたい。

私の研究は、日本の近世文学を対象としている。幸いなことに、応仁の乱以後、特に江戸期の文芸作品は、書写・出版された当時の姿で、全国各地に豊富に残っている。よく知られる芭蕉や西鶴や近松といった作家の作品は江戸文芸総体の一角に過ぎないし、彼等にあっても資料の新出はあり得ない夢ではないから、資料の搜索と調査は、研究に不可欠である。

大学院生の時代に、母校の附属図書館が所蔵する文庫を総合調査する機会があった。それは上方歌謡の個人コレクションで、商社マンとして関西に生涯を終えた、ある古書愛好家の蒐集にかかる。一千点を越える資料が、当人の逝去により古書肆に出回り、約半世紀前に大学が購入したものらしい。複数人で一点ごとにカードをとり、パソコンに入力するという、目録作成の基礎作業を行った。

調査結果の一部が、共同執筆により紀要に掲載されたあと、さる先輩の呼びかけで、蒐集家の墓参をしようということになった。親族の情報も得られないまま、菩提寺の御住職に紀要を預けて帰った。

数ヶ月後、御住職からの連絡で、その蒐集家

の御令嬢が見つかって、紀要の件を知り、まだ手元に保管してある資料の調査を希望しておられる、という。当のコレクションは、実は全体の半分に過ぎなかったことが判明したわけで、喜び勇んで御自宅を訪問した。

御令嬢は、すでに八十に達しておられた。決して広くはない居住スペースを塞ぐように、長持八箱分の資料があった。御令嬢は大学では薬学を修めた理系畑の方で、資料的価値への認識はもとより、上方歌謡について、何の関心も持っておられない。にも拘わらず、ゆえあって半分は手放したが、嫁ぎ、転居するうちにも、どうしても処分しきれず、いままで持ち続けることになった、と語る。学者ではなかった蒐集家は、無類の本好きゆえに身代を潰しかけたことさえあり、晩年、自分の入院費に充てるべく蔵書売却しようとする家族を叱りつけるほどであったらしい。父親の執念は、娘の記憶から消えることがなかった。虫損・湿害のほとんどない保存状態は、父娘二代にわたる、こまやかな心配りの賜物と思われた。

その方は一昨年他界されたが、幸いなことに、それらの資料は大学附属図書館へ寄贈される運びとなり、一旦ふたつに分かれたコレクションは、再びひとつとなって、研究者の閲覧に供されるに到っている。

さて、稿の冒頭にも、「幸いなことに」と書いた。江戸期の文芸資料が、「幸いなことに」全国各地に豊富に残っている」と書いた。いかにも、「幸い」なのである。自身の浅い研究歴のひとこまの、資料発見の僥倖を言いたいのではない。また、それが、大学の附属図書館に収蔵されたことを指して言うのでもない。本への深い愛着



を持つひととその愛着を理解するひとの存在の得難さ、残す意志を持続することの困難を、いま、思い遣っているのである。

図書管理の仕事の難しさは、個人の蔵書レベルでさえかくの如くであるのだから、大規模な公共機関における今日的な問題は、私の想像をはるかに凌ぐものがある。本は日々出版され、情報は加速して増えゆくのである。ましてや、法人化を控えての全学的な資料点検が始まるうとしている。図書館に返却される資料数も、前後の処理に費やされる館員の方々の御尽力のほども、気の遠くなるような膨大さに違いない。

昨年末、本館所蔵の廃棄対象二次資料リストが届いた折はいささかならず驚いたが、かくなるうへは、古いもの・利用頻度の低いものから処分せざるを得ない事情も、一応は肯ける。二次資料とは、この場合、書庫一階に配架の、出版目録や蔵書目録の類を指す。情報サービス課の説明によれば、WEB検索の可能な目録に限りて今次の廃棄対象に選ばれたと聞く。

WEB化の推進は、スペース不足の抜本的な解消の、唯一絶対の方策であるかに見える。しかし、当たり前な理屈をこねるようだが、新しいものがいつも古いもののすべてを覆うわけではない。利用頻度の低いものが即不用ということにもならない。目録の例でいえば、WEB検索の場合、原則、目当ての書目の名称や著者名を事前に知っていなければ役に立たないのに対し、書冊目録は労を厭わずページを繰りさえすれば、未知の情報が獲得できるのである。あるいは、既知の書目の確認に開いたページに、意外な新見が得られることもある。何より、その文庫・その図書館の蔵書全体が、具体的な厚みを持って把握されると否との差ははなはだ大きい。

人文科学系の学問の要諦が、微細な事柄の背後に広がる無限を解き明かすことにあるとするなら、その意味において、書冊目録は二次資料ではない。WEBの便を否定するものでは決してないが、それだけではあがなえない価値も、

確実に存在するのである。

山口大学附属図書館は、浄瑠璃資料を中心とする若月紫蘭文庫、徳山毛利藩旧蔵の棲息堂文庫をはじめとする貴重古典籍の所蔵館として、日本古典文学研究者には夙に知られた存在である。旧制山口高等学校や旧制山口高等商業学校の旧蔵資料も、和本を多く含むばかりでなく、明治以降に発行された各分野の専門書が揃い、その知のありようの総体を教えてくれる。本学が誇るべきこれら蔵書の存在意義は、しかし、学内に、附属図書館に関わる教員職員に、どの程度意識されているだろう。図書館ホームページ上の特殊文庫説明はすこぶる見にくく、且つ素っ気なく、貴重書庫は名誉教授室に占拠されて、まともな閲覧室さえないのが現状である。

棲息堂文庫については、文部科学省大学共同機関である国文学研究資料館主導のデータ収集作業が継続中で、毎年、学外の研究者を交えて細目カードを採録している。旧制山口高校旧蔵和書の目録作成を目指して、断続的にはあるが、大学院生とともに書誌調査を行って来ている。専門研究者への提供を目的とするこれらの活動以外に、授業を利用して、貴重書庫内で和書閲覧の心得を講じることも試みた。和本に残る虫食いや手垢の跡に、学生は一様に感動の声をあげる。年月の重みは、いまどきの若者の心にも確かに届くと見える。

何がどのように貴重なのか、具体的な説明を怠りつつここに到ったが、まずはいちど、貴重書庫を訪れて戴きたい。棲息堂文庫の一冊を慎重に手にとって、版本の欄外にまで細かく書き込まれた筆の跡を一見願いたい。徳山藩のひとびとの学びの心は八千冊にいまなお鮮やかに残って、三百年の伝来の意味は、無言のうちにわれわれを圧倒する。 (おざき ちか)

小特集 / Q & A 図書館利用の基礎知識

図書館と言えば、本を読むところとか本を借りるところといったイメージを持たれている方は少なくないでしょう。しかし、図書館の持っている機能はそれだけではありません。これから、図書館を利用する上で、是非知っておいて欲しいことがらをご案内します。

Q . 山口大学附属図書館には、どのような資料がありますか？

A . 図書館では、本や雑誌、ビデオやDVD、古文書からWebで利用する電子資料まで、学習や研究のための幅広い資料を提供しています。

書店には新刊書が並んでいますが、図書館では、新刊書のほか、絶版で購入できない図書や雑誌バックナンバー、市販されない資料（社史・各種報告書など）も備えています。

[発行・流通形態による区分]

図書・雑誌・新聞・年刊・追録など

[内容よる呼び方]

娯楽書・教養書・学習書・専門書など
白書・統計書・年鑑類・Directoryなど

[使い方による区分]

参考図書(Reference Book)など

[利用目的（購入時の経費）による区分]

学生用図書・研究用図書など

[メディア（媒体）による区分]

視聴覚資料・マイクロ資料・電子資料など

[学術雑誌の掲載内容による区分]

論文誌・Letter誌・Review誌・抄録誌など

図書と雑誌・紀要類

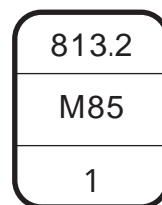


Q . 資料は、どのように並べられているのですか？

A . 開架図書室（2階フロア）には学習図書、書庫（4 - 5層）には研究用図書が、それぞれNDC（日本十進分類表）分類にしたがって配架されています。

NDC分類は、書籍の背に貼られている3段の図書ラベルの上段に記載されています。

図書ラベル



NDC 分類

著者記号

巻冊・巻次

ラベルの一番上の“813.2”がNDC分類です。この数字の先頭の1桁が分類表の1次区分に当たり、“8”は言語に分類されていることを表しています。

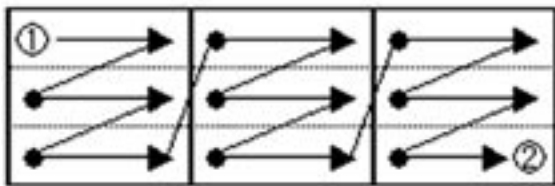
日本十進分類	1次区分表（類目表）
0	総記 General Works 図書館、図書、百科事典、一般論文集、逐次刊行物、団体、ジャーナリズム、叢書
1	哲学 Philosophy 哲学、心理学、論理学、宗教
2	歴史 History 歴史、伝記、地理
3	社会科学 Social Science 政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗習慣、国防
4	自然科学 Natural Science 数学、理学、医学
5	技術 Technology 工学、工業、家政学
6	産業 Industry 農林水産業、（商業）、運輸、通信
7	芸術 The arts 美術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸、娯楽
8	言語 Language
9	文学 Literature



雑誌には、背ラベルはなく、誌名のアルファベット順に配架しています。

新着雑誌	雑誌閲覧室（1階）
人文社会系国内雑誌	書庫2層
人文社会系外国雑誌	新館地階
自然科学系国内雑誌	書庫3層
自然科学系外国雑誌	書庫3層
大学紀要・報告書類	書庫1層

書架上の並び（図書・雑誌共通）



図書や雑誌は、書架では から への順番で配架されています。

詳しくは、利用案内の図書館マップをご覧ください。また、図書館員にお気軽にお尋ねください。

Q . 蔵書検索（OPAC）で表示された資料が、その分類の書架に並んでいないのですが？

A . OPACの所在情報は次の項目からなります。

- 所在場所 本開架2F、本書庫4/5F、など
- 請求記号 図書ラベル記載の情報
- 分類番号、著者記号、巻次
- 資料番号 図書一冊づつの管理番号
- 状態 貸出中・製本中などの情報

分類番号のほか、所在場所や「貸出中」などの情報も確認してください。

また、図書の配列が乱れて、違った位置に並んでいる場合がありますので、周りも調べてください。配列の乱れは定期的に整頓作業を行って直していますが、乱れに追いつかない状態です。分からないときは、図書館員にお尋ねください。館内で利用した資料は、元の正しい場所に返納するようお願いいたします。なお、貸出中の図書・雑誌には、貸出予約ができます。“貸出中”の表示をクリックすると、予約入力画面が出てきますので、利用者

ID、お名前、メールアドレスを入力してください。資料が返却された時にメールでお知らせします。予約された資料は、貸出カウンターに保管しますので、お申し出ください。

Q . 蔵書検索（OPAC）で「研究室貸出」と表示される図書は利用できないのですか？

A . 教官研究室には、各教官が研究費で研究上の必要から購入した資料が、長期に貸出されています。OPACでは「研究室貸出」と表示されます。研究室貸出中の資料も利用ができますので、必要な場合は遠慮なくカウンターの図書館員にお申し出ください。但し、教官のご都合ですぐに利用できない場合があります。

山口大学蔵書検索
 オーパック(OPAC: Online Public Access Catalog) と呼びます。

蔵書検索画面



Q . 書庫にあるのに蔵書検索(OPAC)では検索・表示されない図書があるのですが？

A . OPACで検索できるのは、全ての開架図書と雑誌、1981年度以降に受け入れた書庫内図書及び研究室貸出図書です。

1981年以前の図書は、OPACで検索できるよう入力作業を進めていますが、未入力の図書はカード目録を使って調べる必要があります。カード目録は、和書・洋書別それぞれに、書名目録と著者名目録があります。



書名目録（書名から調べる場合）

目録カードは、書名のアルファベット順（和漢書の書名もローマ字読みのアルファベット順）に配列されています。

著者名目録（著者名から調べる場合）

目録カードは、著者や編者等の名前のアルファベット順に並んでいます。西洋人の氏名は原綴りで、東洋人の氏名もローマ字読みのアルファベット順です。「綴り」が分からないときは、「人名目録」などで調べてから探してください。

なお、カード目録ではOPACのように書名や著者名の一部を手掛かりにして調べることはできません。

Q . 山口大学に所蔵していない資料を入手する方法はありますか？

A . 学外の図書館に雑誌の記事・論文の複写や図書の利用の依頼をすることができます。図書館間で行われている相互利用サービスで、図書館ではLL (Inter-Library Loan)と呼ばれています。

利用者の皆さんには、この複写や貸借の依頼を図書館のホームページから申し込んでいただいておりますが、このサービス利用のためには、予め利用申請をする必要があります。その申請方法や複写・貸借依頼方法については図書館のカウンター（情報リテラシー係）でお尋ねください。

文献複写申込画面



I L Lに掛かる料金

文献複写 「35円×複写枚数+送料」
図書の貸借 「往復の送料」
雑誌は借用することができません。

Q . 図書館で探している事柄が、うまく見つからない場合はどうしたらいいですか？

A . 困った時は、ご遠慮なくカウンター（情報リテラシー係）の図書館員に相談して、レファレンス・サービス（参考調査サービス）を受けてください。

レファレンス・サービスとは、資料の所在調査や事項の調査を、図書館員が直接お手伝いをするサービスです。相談は電話や電子メール、FAXなどでもお受けします。事柄を調べるには、レファレンス・ブック（参考図書）と呼ばれる資料を用います。

レファレンス・ブックの種類

- 一般的知識を得る.....百科事典
- 特定分野のことがらを調べる...専門事典
- 図や絵、写真が欲しい.....図鑑
- 手順、方法を知りたい.....ハンドブック
便覧
- 歴史的なことがらを調べる.....百科事典
歴史事典・年表
- 最近のことがらを調べる.....年鑑
- ことばの意味や字を調べる.....辞典
- 統計やデータを調べる.....統計・年鑑
白書・便覧
- 土地、地名を調べる.....百科事典
地名事典・地図帳
- 人物や企業を調べる.....百科事典
人名事典・人名録・名鑑
- 文献を探す.....書誌・目録・索引

最新の出来事などは、Webサーチエンジンを用いるのも有効な手段ですが、ネットワーク上の情報は、その発信者を確認して、信頼で



きる情報源がどうかを検証の上、利用する必要があります。

文献を探す場合は、データベースの利用をお勧めします。詳しくは、カウンターにお尋ねください。

Q. レポートや論文に示されるの引用文献や参考文献の見方や書き方を教えてください。

A. 引用文献や参考文献には、統一された書き方はありませんが、一般的な書き方と、最低限必要な項目をあげておきます。

[図書の場合]

著者名、書名、出版社、出版年、叢書名

[雑誌記事の場合]

著者名、記事のタイトル、雑誌名、巻号、発行年月、掲載ページ(初めと終わり)

[新聞記事の場合]

著者名、記事のタイトル、新聞紙名、発行年月日、朝・夕刊の区別、掲載ページ

[記載例]

- 1) 仲本秀四郎. 情報を考える. 丸善, 1993, p.43-48. (丸善ライブラリー073)
- 2) 岸美幸. メディアの融合と普及. <丸山昭二郎他編. 情報アクセスのすべて. 増補改訂版. 日本図書館協会, 1993.> p.146-147.
- 3) 高見沢明雄. 「文化財情報システム」の計画について 情報管理. Vol.33, No. 9, p.841-842(1990.12)

- 4) 同書, p.843.
- 5) 告発! 美術批評界. 芸術新潮. Vol. 43, No.12, p.129 (1992.12)
- 6) 仲本, 前掲書, p.83-85.
- 7) 企業資料 約八千点 竜谷大が一般公開 大正の商社情報戦も. 日本経済新聞. 1983.3.17 (夕刊) p.15.
- 8) 黒川創. 用語事典を読む. 朝日新聞社. 1992.12.13 (朝刊) p.11.
- 9) e-Japan重点計画 - 2002. (2002) <<http://kantei.go.jp/jp/singi/it2/index.html>>

記載例の解説:

- 1) 叢書名(シリーズ名)のある図書
- 2) 図書の一部を引用。<>内が1冊の図書としての書誌事項
- 3) 雑誌に掲載された1論文を引用
- 4) 直前の3)と同じ著作の別ページを引用
- 5) 著者名が書かれていない雑誌記事を引用
- 6) 1)で引用した著作の別ページを引用
- 7) 無署名の新聞記事を引用。P.15は15面の意味
- 8) 著者名のある新聞記事を引用
- 9) ホームページを参考

参考文献

藤田節子. 学生・社会人のための図書館活用術. 日外アソシエーツ. 1993

本学関係教官著作物寄贈図書

寄贈者	著者名	書名
・谷光太郎 (経済学部)	谷光太郎著	日米韓台半導体産業比較
・井上三朗 (人文学部)	井上三朗著	ジュリアン・グリーン研究序説: 「幻を追う人」「モイラ」の読解
・城下賢吾 (経済学部)	榎原茂樹、城下賢吾[ほか]著	入門証券論
・城下賢吾 (経済学部)	城下賢吾著	市場のアノマリーと行動ファイナンス
・尹春志 (経済学部)	原田太津男、尹春志[ほか]著	東アジア開発モデルの再考: 国家・経済・社会をめぐる
・庄村長 (経済学部)	奥林康司、庄村長[ほか]著	柔構造組織パラダイム序説: 新世代の日本の経営
・庄村長 (経済学部)	吉田和夫、奥林康司編著	現代の労務管理
・庄村長 (経済学部)	法政大学大原社会問題研究所	労働の人間化の新展開: 非人間的労働からの脱出
・山本真弓 (人文学部)	山本真弓著	牡牛と信号: 「物語」としてのネパール
・嶺厚 (人文学部)	嶺厚著	有事法の罫にだまされるな!!
・入不二基義 (教育学部)	入不二基義著	時間は実在するか
・澤喜司郎 (経済学部)	三村真人、澤喜司郎[ほか]編著	交通と文化の史的融合: 小林照夫教授還暦記念論文集
・吉松秀孝 (東アジア研究科)	吉松秀孝著	"Internationalization, corporate preferences and commercial policy in Japan"
・吉松秀孝 (東アジア研究科)	吉松秀孝著	The politics of telecommunications reform in Japan
・吉松秀孝 (東アジア研究科)	吉松秀孝著	"Japanese government-business collaboration and the operations of Japanese corporations in Asia"
・高橋征仁 (人文学部)	片瀬一男、高橋征仁[ほか]著	道徳意識の社会心理学
・高橋征仁 (人文学部)	武藤孝典編著	人格・価値教育の新しい発展: 日本・アメリカ・イギリス



トピックス

学術シンポジウム

- 山口大学の学術情報基盤を考える -

平成14年10月1日、大学会館大ホールで表記シンポジウム（附属図書館主催：メディア基盤センター後援）を開催しました。

「学術情報の体系的な収集体制と情報発信機能の整備」をテーマに、伊藤義人名古屋大学附属図書館長による基調講演「新しい時代における大学図書館の役割」及び森田雄介徳島大学附属図書館長ほか4名の内外教官によるパネルディスカッションが行われました。

当日は、学長・副学長をはじめ、多数の教職員、学生等、百十数名の参加があり、会場からも活発な意見が出され、学術情報基盤整備に向けた関心の高さが示された。なお、シンポジウム冒頭には、10月から正式に利用開始となった引用文献データベースWeb of Scienceの開通式として学長の著作論文を材料としたデモンストラーションが行われました。



第43回中国四国地区

大学図書館研究集会

平成14年10月23～24日、標記の研究集会が本学当番館として開催されました。参加者は、

地区の国公立大学の図書館職員52名。

メインテーマは「大学構造改革と図書館」とし、「授業支援と地域開放」（熊本学園大学附属図書館奉仕課宮原由美子氏）、「大学における学術情報基盤整備と情報の発信」（三重大学附属図書館情報サービス課河谷宗徳氏）の2つの基調報告、参加者の研究発表・実情報告、2つの分科会を開設した。熱心な質疑と活発な討議がなされ、時間いっぱいの盛況でした。



図書館振興県民のつどいへ参加

山口県図書館協会主催の「図書館振興県民のつどい」に参加し、大学図書館の活動をアピールしました。例年の山口県大学図書館協議会のパネル展示に加えて、ハイブリッドライブラリーと題し、オンラインで新聞記事が読めるDNA、雑誌記事検索ができるマガジンプラスなどを体験してもらいました。



オープンライブラリー2002



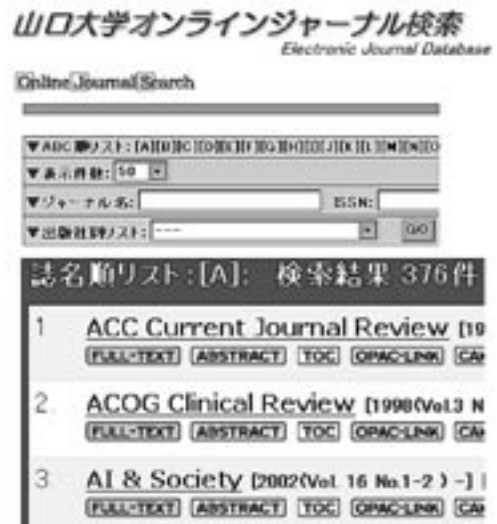
【所蔵貴重資料展の様子】

平成14年11月3日、大学祭に合わせてオープンライブラリー2002を開催しました。所蔵貴重資料展では普段目に触れることのない大内氏や毛利氏の書状や、平成14年6月に山口市嘉川の本間家より寄贈を受けた文書・写真（経済学部木部和昭助教授・解説）などを公開しました。また、デジタルライブラリーでは各大学図書館のデジタル化された資料や本学のデジタル絵図を見ていただき、本物の資料より鮮明な画像に驚く方もたくさんいらっしゃいました。その他に、図書館ツアーや来館された一般市民の利用者登録、利用カードの即日発行を行いました。当日はあいにくの天気にもかかわらず、一般の方の来場は150名にもものぼるものでした。



オンラインジャーナルが検索できるようになりました

山口大学で契約している電子ジャーナルの検索データベースができました。以前はABC順リストと出版社別ホームページからのアクセスしかできませんでしたが、データベースでは雑誌名からの検索機能が加わりました。2週間弱で1500件以上のアクセスがあり、改めて必要性を実感しました。2月から本館で行っている講習会には、新4年生からの申込が相次いでおり、卒論にも役立ててほしいと思います。



工学部分館改修中

附属図書館工学部分館は、現在改修中です。4月には、リニューアルオープンします。



【工事中の玄関 平成15年2月17日現在】



会議

- 学外
- 14. 9.20 図書館振興県民のつどい実行委員会
(於: 山口県立山口図書館)
 - 14.10.10 国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議
(於: 岡山大学)
 - ・独法化に向けての資産目録作成に係る諸問題について
 - ・電子ジャーナルのデータベース登録・利用について
 - ・図書目録業務の動向と問題点
 - 14.11. 7 中国四国地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議
(於: 岡山大学)
 - ・国立大学法人化への対応について
 - 14.11.14-15 日本医学図書館協会中国・四国部会総会
(於: 岡山大学)
 - 14.11.25 図書館振興県民のつどい実行委員会
(於: 山口県立山口図書館)
 - 14.12. 5-6 国立大学図書館協議会シンポジウム
(於: 九州大学)
 - 15. 1.23 国立大学附属図書館事務部長会議
(於: ホテルグランヴェール岐山)
 - 15. 2.17 NACSIS-CAT/ILL講習会担当者会議
(於: 国立情報学研究所)

学内

- 14. 9.19,27 本館増築WG
- 14.10. 1 附属図書館シンポジウム
- 14.10. 4 第5回本館資料選定委員会
- 14.10. 9 工学部分館図書・研究報告委員会
- 14.10.11 第110回運営委員会
 - ・山口大学学術教育情報機構(仮称)について
 - ・附属図書館とメディア基盤センターとの複合施設の方針について
- 14.10.25/11.13,29 中期目標・計画第1次原案調査票作成及び資産評価検討グループの全体会議
- 14.11. 8 第6回本館資料選定委員会
- 14.11.26 第111回運営委員会
 - ・図書館資料費の執行計画(案)について

編集後記

芳原達也医学部分館長より「これからの図書館のあり方」、人文学部尾崎千佳講師より「残す意志・伝える心」をご寄稿いただいた。お二人からの一見相異なるご注文には、共に図書館の幅広い役割とそれに対する熱い期待が込められている。(石)

山口大学附属図書館報 「Library News」
Vol.24 No.1 (通巻67号) 2003年3月25日発行
<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/>

- 14.12.13 第7回本館資料選定委員会
- 14.12.11 広報編集委員会
- 15. 1. 9 附属図書館研究基盤資料選定WG
- 15. 1.15 工学部分館図書・研究報告委員会
- 15. 1.23 附属図書館法人化打ち合わせ
- 15. 1.27 第8回本館資料選定委員会

研修

- 14. 9.17-10.18 平成14年度会計事務研修(簿記)
(於: 山口大学)
参加者: 森永利用者サービス係員
- 14.10.11 メタデータ・データベース共同構築事業説明会
(於: 九州大学)
参加者: 岡田メディア情報係長
- 14.10.11/11. 6 公立図書館職員等専門講習会
(於: 山口県立山口図書館)
参加者: 藤本情報リテラシー係長、高崎図書情報係員、高井図書情報係員、森永利用者サービス係員、堂迫情報リテラシー係員、原田情報リテラシー係員
- 15.10.21-23 平成14年度山口大学主任研修
(於: 国立山口徳地少年自然の家)
参加者: 高田情報サービス主任(医)
- 14.10.23-24 中国四国地区大学図書館研究集会
(於: ホテルニュータナカ)
山口大学主幹
- 14.11.12-15 平成14年度大学図書館職員講習会
(於: 京都大学)
参加者: 杉原情報サービス係員(医)
- 14.11.20-22 パソコンリーダー研修会
(於: 山口大学)
参加者: 金重総務主任
- 15. 1.23 平成14年度中国地区男女共同参画セミナー
(於: 広島合同庁舎)
参加者: 藤本情報リテラシー係長
- 15. 2.18-21 平成14年度情報処理軽井沢セミナー
(於: 国際高等セミナーハウス)
参加者: 守永メディア情報係員

人事異動

- 14. 9. 1 採用 山根 久枝 情報サービス課利用者サービス係
- 15. 2. 1 配置換 林 道子 工学部調達係(工学部分館情報サービス係)
" 島内 美恵子 工学部分館情報サービス係(工学部調達係)

編集・発行 山口大学附属図書館広報編集委員会
〒753-8516 山口市吉田1677-1
TEL.(083)933-5183 FAX.(083)933-5186